



『香呂地区』をたずねて

香呂地区は姫路市の北部、香寺町の南半にあたる。東は市川、西は棚原山系に境され、東寄りをJR播但線と国道312号線が南北に走る。地形は須加院川の谷底平野と市川西岸の低地、台地、そしてそれに続く丘陵山地からなる。

開発の歴史は古く、縄文時代からの遺跡が確認されており、法花堂2号墳などの古墳群が点在する。古代は播磨国風土記の的部里に比定され、田野の高野神社と奥須加院の磐座（今毘沙門天を祀る）がその証拠とされる。また、播磨の天台6カ寺に数えられる八徳山八葉寺と全国有数の文化財である極楽寺瓦経からも当時の繁栄がしのばれる。中世では的部南条と呼ばれ、その所領は天皇家から天龍寺や仁和寺などへ寄進され、その後しだいに武士の手へと移っている。当地には伊勢山城・矢田部城・田野城など、置塩城に拠る赤松氏の支配下に入った在地小領主の山城跡がいくつか残っている。江戸時代を通じて姫路藩領であり、生野街道で姫路城下に通じ、渡し舟で川東の神東郡や北条との往来もあった。村数は12か村で、同じ大庄屋組に属する。寛延2年(1749)の大一揆では大庄屋宅が打ちつぶされるなどこの地区の村々も巻きこまれた。米麦、綿作を主とする純農村で、年貢米は市川の舟運、高瀬舟で飾磨の港へ運ばれていた。

明治22年(1889)の市制町村制施行で12か村が合併して香呂村となり、昭和29年(1954)、中寺村と合併して町制をしき香寺町となる。昭和50年代には、姫路北郊の住宅地として急速に開発が進み人口が倍増した。平成18年(2006)3月に姫路市に合併する。

①蓮香翁寿碑 口須加院はずれの地蔵堂の境内に寺子屋師匠鷲野慧通の寿碑が立つ。蓮香翁は、幕末から明治初年にかけて田野で寺子屋を開き、門弟は400人を数えたと伝えられ、その寺子屋は郡内でも有数であった。

②神明神社 当社は南方の増位山の東南有明山から天照大神を移し、永禄9年(1566)に社殿を造営したのに始まると伝える。江戸時代に竹の宮などを合祀。秋祭りに奉納される獅子舞は昭和53年(1978)指定の兵庫県重要無形民俗文化財で、そのうち三役の舞は人身御供伝説を偲ぶ神楽と言いつつ、境内にはそれにちなむ犬塚(終末期古墳と推定)がある。

③伊勢山城跡 南北朝時代の山城。喜多野氏の居城で、赤松氏(置塩城)の家老職であったともいう。喜多野氏は落城後帰農し、江戸前期、大庄屋を務める。山頂に城跡、山麓や神明神社境内に城館の遺構が見られ、保存に向け現在調査中である。

④中仁野渡し場跡 市川の渡しが香寺町域内に三か所あり、ここは東岸の仁色村(現船津町のうち)との往来に使われた。中仁野東垣内は元は仁色村の新田で、市川の流路変化によって親村から引き離されたからである。旧流路はいま古川とよばれている。

⑤蛇穴神社 曲流する恒屋川と大妻水路で二重に囲まれているのが珍しく、元は恒屋川と市川との合流点付近の中洲とも考えられる。「蛇穴」はその地形環境からの命名で、柳田国男によると土器を指すサラキ・サダキであり、その製法輪積法のイメージ、とぐろを巻くからきているという。拝殿のタコが袴を着けた絵柄の絵馬はユニークで市指定文化財。

⑥勅使塚 香呂・一原神社の境内南にある古墳。元は畑であったが今は境内に入り、その前に神社由緒を記した石碑が立つ。来光塚ともいう。

⑦薬師堂 香呂集落に散在していた薬師堂、地蔵堂などが、明治42年(1909)、ここに合祀された。薬師堂は天平年間の創建と言いつつ、今も節分の厄除け大護摩供養はにぎわう。明治初年、境内に戸長役場が置かれ、香呂村発足当初しばらくは村役場でもあった。



①蓮香翁寿碑(右奥)



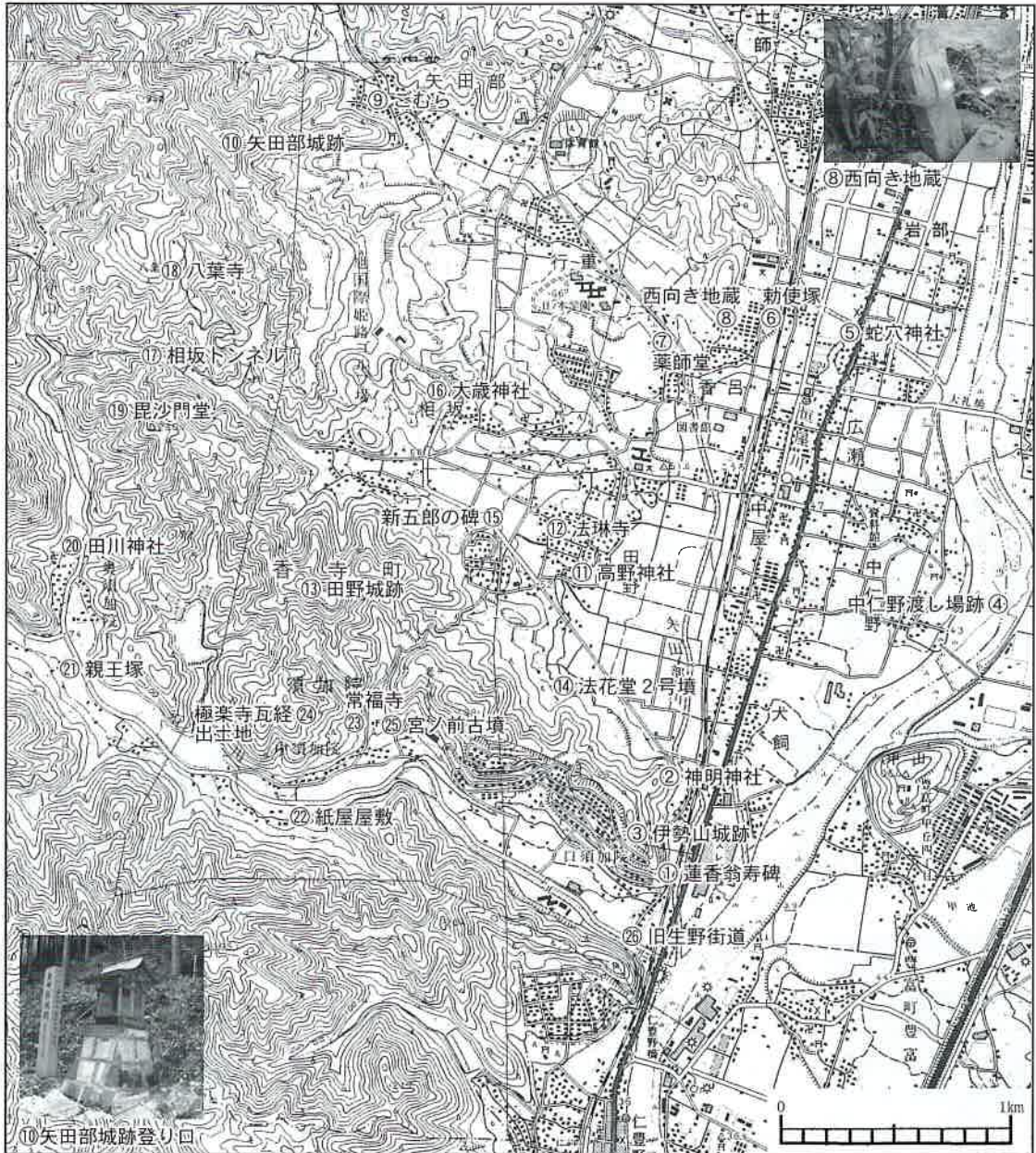
②神明神社



⑤蛇穴神社



⑥勅使塚



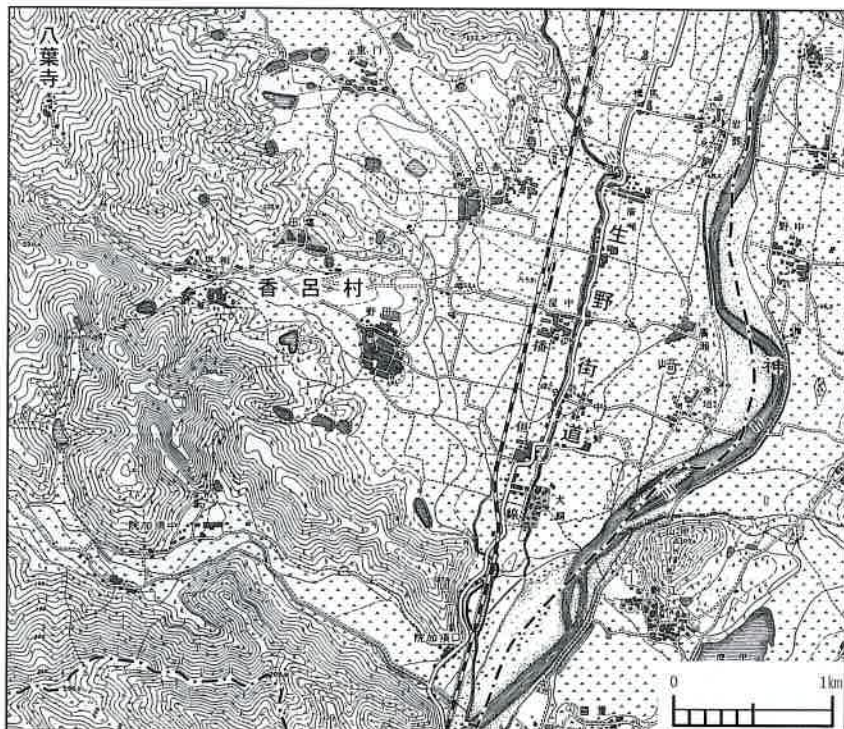
香呂地区の文化財分布図 (S = 1 : 30,000) この地図は姫路市域図1 : 25,000(北部・中部)をもとに作成したものを。

⑧西向き地蔵 香呂から溝口を経て福崎へと続く脇往還と岩部への分岐点に立つ道標地蔵。「右 いゆわべ 左 しんまち」と刻まれ、「いゆわべ」は古代の的部郷(いはべ)と現代の岩部(いわべ)とのつながりを示す表記であると注目され、町文化財(現市指定)に指定された。

⑨ごむら 矢田部の村中にある墓地。数基の五輪と宝篋印塔の残欠群で室町・戦国期などのもの。鎌倉末期の文保元年(1317)に多可郡安田庄から来住した後藤氏の一族が、後に先祖供養のため建立したと伝え、子孫が今も祭っている。郷倉とも書く。

⑩矢田部城跡 標高約250mの城山山頂に位置する中世の山城。後藤氏が14世紀中頃に築城し、その後置塩城主赤松氏に仕えたが、秀吉の播磨攻めで落城する。居館跡は集落の中に後藤屋敷と呼ばれて残っている。

⑪高野神社 播磨国風土記に高野社が見え「此の野、他野より高し」とある。洪積台地末端部に位置する田野の高野神社がこの高野社である。だが社殿焼失で古記録に欠き、かつて郷社、県社への昇格はなかった。一木造りの神像は鎌倉時代の作ではないかと推定される。



明治39年発行の地形図 20,000分の1図を縮小して加筆、原図の地名は右横書き。



⑪高野神社



⑫法琳寺



⑬法花堂 2号墳の箱式石棺

⑫法琳寺 法華宗真門流。法華信仰が広まり、寛延元年(1748)、清瀬氏一族が先祖の居館跡に庵室を開いたのが最初で、寺号を称えたのは明治13年(1880)である。村の入り口東と南には法華信仰を示す題目塔が立つ。落ち武者伝説の岩を祀る岩婦大明神が境内の一隅にある。

⑬田野城跡 伊勢山城、矢田部城とともに置塩城の東の備えとなる山城。『播磨鑑』には、城山山頂に本丸・西の丸があったとある。清瀬氏の祖、堀氏が14世紀、相模から移住して赤松氏の旗下となって築城したという。天正5年(1577)に秀吉に降る。居館跡は今法琳寺の境内である。

⑭法花堂 2号墳 田野字法花堂には現在3基の古墳が知られており、その一つ。昭和58年(1983)の発見で、箱式石棺から頭骨とともに甲冑や鉄製品が出土した(県指定文化財)。甲冑は5世紀後半の短甲式で、武器から見て首長級の墳墓と推定される。墳丘はなく石室は埋め戻された。市指定文化財。

⑮新五郎の碑 山争いで須加院村を助けて殺されたという新五郎の供養碑。新五郎は田野の清瀬一族で、天正19年(1591)のことと伝えるので田野城落城後、帰農して間のない頃である。この碑は、相坂の一女性の悲願で昭和7年(1932)に建立された。

⑯大歳神社 相坂字塩田の氏神。大年神を祭神とし、創建年代は不詳。神社に置かれていた凝灰岩製の石絵馬は珍しく、市指定文化財。文政9年(1826)、塩田の武右衛門が奉納したもので、拝殿前の石燈籠も寄進している。境内に牛馬供養の大日如来が祀られ、これにも彼の名が刻されている。

⑰相坂トンネル 地元では逢坂のトンネルとも言い、相坂本村と谷山を結ぶ。大正10年(1921)に完成し、長さ70m、アーチ型のトンネルはレンガで築かれている。レンガは香呂駅西の煉瓦会社で作られたもので、町内では数少ない近代化遺産である。夢前から山崎へと向かう県道だが、狭隘なため現在改修計画が進められている。



⑭法花堂 2号墳出土品
(上は冑・下は短甲)



⑯石絵馬



⑮新五郎の碑

⑮八葉寺 八徳山山上にある天台宗寺院。播磨天台六カ寺の一つに数えられる古刹である。天平年間、行基が開いたとの寺伝もあるが、中興の開祖は平安時代の儒学者慶滋保胤(986年に出家して寂心)と思われる。寂心は書写山円教寺の性空と親交があり、沐浴の湯釜(市指定)を贈られたといい、今に奥院(市指定)に伝わる。その釜を納める厨子(県指定)、一間春日厨子には大永5年(1525)の銘があり貴重。奥院は開山堂とも呼ばれ建長年中の創建、寺宝の素文磬(県指定)にも建長7年(1255)の銘がある。奥院の西山裾には永正元年(1504)の宝篋印塔(市指定)が立ち、観音堂の床下には暦応4年(1341)と宝徳4年(1452)銘の宝篋印塔残欠があるなど境内には石造遺物も多い。また、奥院付近には天然記念物子安の木の群生がみられる。毎年1月7日の鬼追い(修正会鬼会式)は近世以来の伝統行事で、市指定無形民俗文化財に指定されている。



⑮八葉寺



⑮八葉寺奥院



⑮毘沙門堂



⑯田川神社

⑯毘沙門堂 丁ヶ崎山山頂近くの岩窟に毘沙門天を祀る。播磨国風土記に出てくる「石座の神山」で、神の座と信じられた磐座である。行基菩薩開基と伝える毘沙門堂と薬師堂があつて、かつて岩蔵山万福寺と称したという。並んで不動明王や岩蔵権現も祀られている。前の広場で初寅の日に大護摩供養が行われてきたが、今は1月2日に続けられている。

⑰田川神社 創建は古く、式内田川神社とも呼ばれる式内社で、旧神崎郡内では豊富町の新次神社と当社だけである。奥須加院の氏神。その起源は、背後にある「石座の神山」の遥拝所とも、須加院川を崇め祀って神社にしたともいわれる。社殿後方の2本の大ケヤキはいずれも樹齢600年程で市指定天然記念物。

⑱親王塚 陸良親王ゆかりの塚と伝え、この付近を新野垣内と呼ぶ。陸良親王は後醍醐天皇の孫に当たり、南北朝の戦乱の中、この近くで亡くなったとの伝承である。ほ場整備で塚は削られ原形をとどめていない。

⑳紙屋屋敷 姫路藩の藩札を漉いた宮辻家の跡。文政2年(1819)、藩政改革を進めた家老河合寸翁に招かれて、摂津有馬郡下山口村(現西宮市)から移り住み、ここに藩札や木綿札の製紙工房を建てていた。

㉑常福寺 町内では唯一の黄檗宗寺院で、山門(天王殿)にその雰囲気がある。元禄13年(1700)、隠元禅師の弟子実伝(姫路雲松寺の中興開山)が開く。庭園の織部燈籠はキリシタン燈籠と呼ばれ、市指定文化財。

㉒極楽寺瓦経出土地 常福寺裏山山頂付近から寛政11年(1799)、瓦経500枚などが出土した。埋納されたのは天養元年(1144)で、願主はここにあった藤原氏の一族日野家の氏寺極楽寺(11世紀前半の創建)の別当禅慧である。この瓦経塚は全国の瓦経塚中でも代表で、出土当時の拓本に加えて、近年56点の瓦経が姫路城中堀から再発見され注目されている。経塚出土の土製阿弥陀如来像などは昭和17年(1942)、国宝(現在重要文化財)に指定されている。

㉓宮ノ前古墳 八幡神社の東、丘陵の麓にある。6世紀中頃の築造で構造は横穴式石室、町内では最大規模である。近くで古墳が2基確認されており、古墳群があつたと思われる。

㉔旧生野街道 道しるべの地藏に迎えられ、伊勢山の裾をぬって犬飼を抜ける辺りには、まだ昔の面影が少し残っている。伊能忠敬一行の別動隊もここで須加院川の土橋を渡つたと記している。

■編集 大槻 守(香寺町史編集室長)



⑱親王塚



㉑常福寺山門



㉒瓦経